

「令和6年度 持続可能な四国地域を目指した共創型官民連携の『はじまり』に関する調査事業」

概要報告書

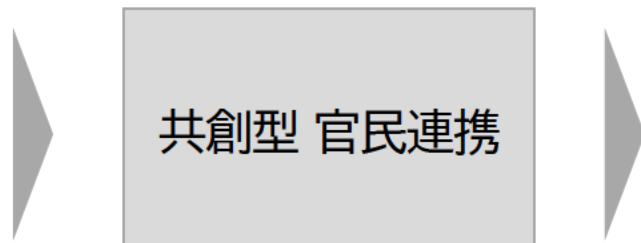
令和7年3月

四国経済産業局
(委託先: 株式会社ダン計画研究所)

(1) 分析のフレーム：共創型官民連携の「はじまり」、その勘所

① 環境変化

- 財政面やマンパワー不足により「公助」に限界。⇒「共助」へ。



② 共創型官民連携の特徴

- 「**対等なパートナーシップ**」
- 「**多様な主体の参加**」
- 「**課題解決と価値創造の両立**」

③ 『はじまり』の勘所



○勘所1：共創型官民連携に取り組む、そもそもの理由。

官民連携に取り組む理由が明快であり、その方針がブレないこと。
それが庁内・職員、さらにはパートナーとなる民間事業者と共有されている。



○勘所2：個の思考変容と、持続性を担保する組織文化づくり。

地域の風土を背景にした多様な主体を受け入れる寛容さや、組織への伝播を促す仕組み。
首長のリーダーシップも大きく影響。



○勘所3：対話と共通体験により育まれる官民の共通理解。

丁寧な対話と共通体験による共通理解。
官民のあいだを取り持つ中間支援組織やカタリスト(触媒)の存在も有効。



○勘所4：経験値を高めるスモールアクション、小さな成功の蓄積。

官民が交わる場と行動の設計。ステークホルダーの様々な思いを包含し創造的な取組を生み出す「余白」もデザイン。

(2) ターゲット・アプローチ法による先行事例のタイプ分け

先行事例10地域について、ターゲット・アプローチ法の観点から、3つのタイプに分類。

<タイプA>

課題を特定せず、**多様な地域課題・行政課題解決**への取組

- 三重県桑名市：「コラボ・ラボ桑名」の開設
- 愛媛県西条市：「西条市SDGs推進協議会」をプラットフォームにした地域課題解決
- 徳島県三好市：移住・定住、関係人口創出に向けた取組
- 長野県塩尻市：「スナバ」を拠点としたシビック・イノベーション、地域DXセンター「core塩尻」を核に先端技術のイノベーションフィールドを提供
- 島根県雲南市：「子ども×若者×大人」に加え、企業と地域が連携し社会課題を解決するビジネスモデル構築に挑む「企業チャレンジ」
- 埼玉県横瀬町：官民連携プラットフォーム「よこらぼ（横瀬町とコラボする研究所）」の開設

※**域内外の民間企業と課題解決・
価値創造という目的達成を目指
し官民連携を推進**

<タイプB>

特定のエリアにフォーカスした、地域活性・地方創生の取組

- 愛媛県大洲市：城下町・大洲の失われる町並みの保全に向けた観光まちづくり
- 徳島県神山町：創生戦略「まちを将来世代につなぐプロジェクト(まちプロ)」の策定・推進
- 広島県尾道市 瀬戸田：日本旅館「AzumiSetoda」開設を契機とした地域活性
- 愛媛県三豊市：「共助」の考え方に基づいた官民連携プロジェクト

※**地域・住民等との、密なコミュニケーションをベースに官民連携
を推進**

(3) 分析のフレーム：共創型官民連携の「はじまり」、その勘所(3+1)

先行事例地域へのヒアリング調査等をもとに、地域の課題解決・価値創造に取り組む自治体が共創型官民連携を進めるための4つの「勘所」を整理。

これらのポイントは、パズルのピースのように相互に関連しあい、どれも欠かせない要素。

(1～3は「考え方や価値観」に、4は「実践」に関するもの。)



○勘所1：共創型官民連携に取り組む、そもそもの理由。

官民連携に取り組む理由が明快であり、その方針がブレないこと。
それが庁内・職員、さらにはパートナーとなる民間事業者と共有されている。



○勘所2：個の思考変容と、持続性を担保する組織文化づくり。

地域の風土を背景にした多様な主体を受け入れる寛容さや、組織への伝播を促す仕組み。
首長のリーダーシップも大きく影響。



○勘所3：対話と共通体験により育まれる官民の共通理解。

丁寧な対話と共通体験による共通理解。
官民のあいだを取り持つ中間支援組織やカタリスト(触媒)の存在も有効。



○勘所4：経験値を高めるスモールアクション、小さな成功の蓄積。

官民が交わる場と行動の設計。
ステークホルダーの様々な思いを包含し創造的な取組を生み出す「余白」もデザイン。

三重県 桑名市 : 「コラボ・ラボ桑名」の開設



共創型官民連携に取り組む、そもそもの理由。

○危機的な財政状況の改善に向けた官民連携



対話と共通体験により育まれる官民の共通理解。

○24時間365日の民間提案の受け入れの体制づくり
○まずは話を聞く姿勢とスピード感ある対応



個の思考変容と、持続性を担保する組織文化づくり。

○東洋大学公民連携専攻での官民連携の考え方・手法についての学びと民間との交流
○小さな成功体験からの庁内理解の醸成
○「コラボ・ラボ桑名」での従事経験が事業課への異動後も庁内へ伝播



経験値を高めるスモールアクション、小さな成功の蓄積。

○広告事業提案制度、ネーミングライツ・パートナーシップ提案制度から官民連携事業をスタートし、連携効果を庁内共有。

(5) 地域のエピソード（ヒアリング調査にもとづく事務局整理）

課題を特定せず、多様な地域課題・行政課題解決への取組

長野県塩尻市：「スナバ」を拠点としたシビック・イノベーション、地域DXセンター「core塩尻」を核に先端技術のイノベーションフィールドを提供



共創型官民連携に取り組む、そもそもの理由。

○地域課題の解決、先端産業分野におけるイノベーション創出に向けた官民連携



対話と共通体験により育まれる官民の共通理解。

○官と民の協働によるプロジェクトの企画立案
○集い、交わるリアルな場と空間・プログラムの設計（スナバ、Core塩尻）



個の思考変容と、持続性を担保する組織文化づくり。

○「しおラボ」や「MICHIKARA」での意識醸成と民間の仕事の進め方の体感
○実行性の担保する行政計画への記載



経験値を高めるスモールアクション、小さな成功の蓄積。

○若手行政職員の勉強会「しおラボ」での職員の思いの熟成
○首都圏大企業のプロフェッショナル人材と共に施策立案を試みるプログラム「MICHIKARA」

愛媛県西条市 : 「西条市SDGs推進協議会」をプラットフォームにした地域課題解決



共創型官民連携に取り組む、そもそもの理由。

○首長が掲げる「スマートシティ西条構想」の具現化(市民に浸透する仕掛け)に向けた官民連携



対話と共通体験により育まれる官民の共通理解。

○民との窓口の一元化
○NTT西日本との対話を西条産業情報支援センター(SICS)のプロジェクトマネージャーが媒介し意識合わせ
○住民に近いCATV会社がプロジェクトのキープレイヤーとして参画



個の思考変容と、持続性を担保する組織文化づくり。

○首長のリーダーシップと現場での対話の積み重ね
○「西条市SDGs推進協議会」が牽引する官民連携の取組



経験値を高めるスモールアクション、小さな成功の蓄積。

○96の「西条市アクションSDGsリスト」をワークショップを通じて抽出
○地域ポイント「LOVE SAIJYOポイント」の企画・運営

徳島県三好市 : 移住・定住、関係人口創出に向けた取組



共創型官民連携に取り組む、そもそもの理由。

○関係人口創出に向けた取組手法の再構築
(ワーケーション実証エリアの創出等)に向けた官民連携



対話と共通体験により育まれる官民の共通理解。

○移住促進についての課題感を官民で共有し、
観光交流から仕事(事業)を通じた関係人口
化へと転換



個の思考変容と、持続性を担保する組織文化づくり。

○プロジェクトの推進を通じたキープレイヤー
の対話と実践
○市町村合併時に経験した行政職員間の対話



経験値を高めるスモールアクション、小さな成功の蓄積。

○地域内外交流拠点「真鍋屋 MINDE」、地域
住民と移住者の地域交流拠「箸蔵とことん」
等の開設

愛媛県大洲市 : 城下町・大洲の失われる町並みの保全に向けた観光まちづくり



共創型官民連携に取り組む、そもそもの理由。

○歴史的町並み喪失への危機感から観光（経済）振興による町並み保全への転換に向けた官民連携



対話と共通体験により育まれる官民の共通理解。

○NPO法人YATSUGIによる古民家の清掃やイベント活動による住民・地権者との思いの共有・広がり、信頼関係の構築へ
○単なるホテルではなく、町並みを保全し、地域のためになる事業者を熱意を持って探索



個の思考変容と、持続性を担保する組織文化づくり。

○行政若手職員、伊予銀行地域創生部・大洲支店と連携し勉強会を通じてプロジェクトを具現化
○覚悟をもった首長（行政）の意思決定のスピード感



経験値を高めるスモールアクション、小さな成功の蓄積。

○志を共有する最小単位のワンチームでスタートし、意思決定・事業推進を加速化

広島県尾道市 瀬戸田：日本旅館「Azumi Setoda」開設を契機とした地域活性



共創型官民連携に取り組む、そもそもの理由。

○しまなみ海道開通後の地域の衰退に対して、
地域固有の資産の活用に向けた官民連携



対話と共通体験により育まれる官民の共通理解。

○地域のステークホルダーと利害関係のないカタリスト(触媒)となる専門人材の役割発揮



個の思考変容と、持続性を担保する組織文化づくり。

○域外の民間企業・アントレプレナーとの出会いによる触発
○ワークショップから生まれた関係性を「瀬戸田のまちづくり協議会」として継続



経験値を高めるスモールアクション、小さな成功の蓄積。

○50年後の瀬戸田を考え行動する「しおまちとワークショップ」の実施

徳島県神山町 : 創生戦略「まちを将来世代につなぐプロジェクト(まちプロ)」の策定・推進



共創型官民連携に取り組む、そもそもの理由。

○絵に描いた餅ではなく実行する計画策定による地方創生に向けた官民連携



対話と共通体験により育まれる官民の共通理解。

○若手行政職員と住民・移住者の出会いの場としての「つなプロ」ワークショップ。場づくりを担う専門人材。
○スピード感を持った行政の取組
○プロジェクト推進を通じたさらなる関係性の強化



個の思考変容と、持続性を担保する組織文化づくり。

○実行を前提とした行政若手職員と民間プレイヤーからなるチーム組成

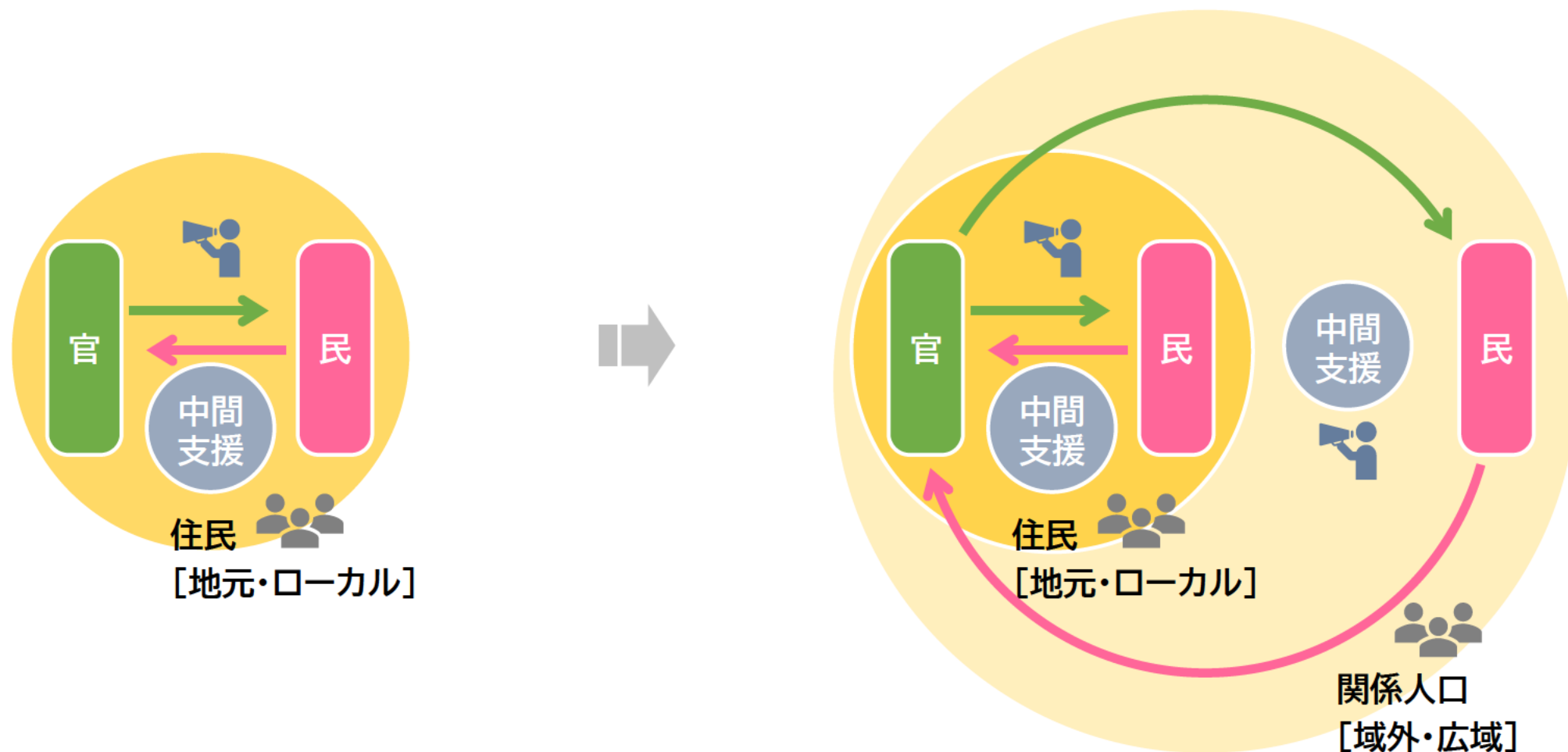


経験値を高めるスモールアクション、小さな成功の蓄積。

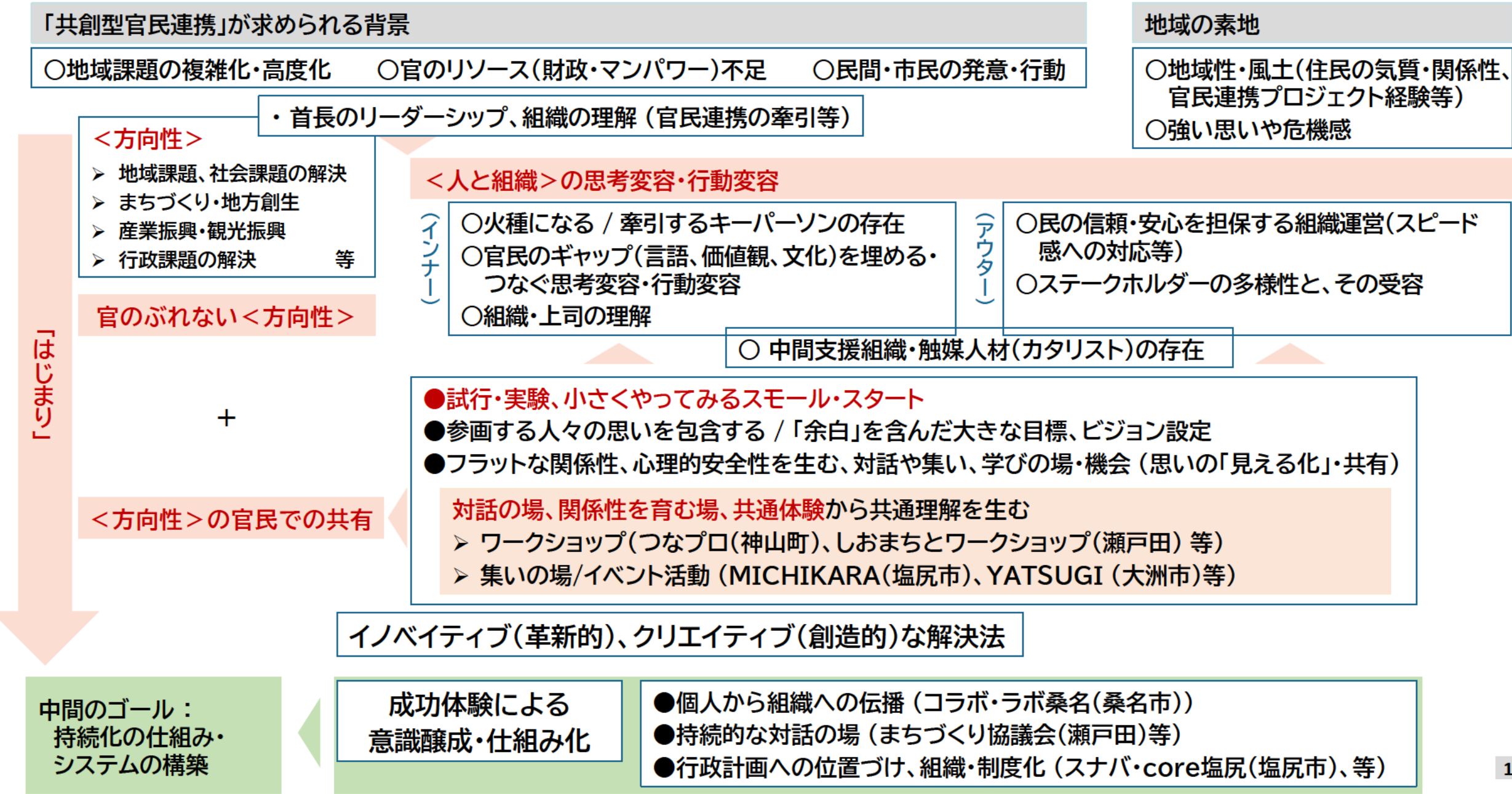
○創生戦略「まちを将来世代につなぐプロジェクト」の策定プロセスでのワークショップ

(6) ユーザーとパートナー設定の「スコープ(範囲)」

- 官民連携は、[地元・ローカル]、[域外・広域]の2つのスコープ(範囲)で展開。
どのスコープで捉えるかによって、向き合う官と民、サービスを楽しむ対象も変化する点にも留意。
- 2つのスコープで、官民連携に取り組んでいる例も多い(大洲市、神山町、西条市、塩尻市等)。



(7) 共創型官民連携 「はじまり」のフロー



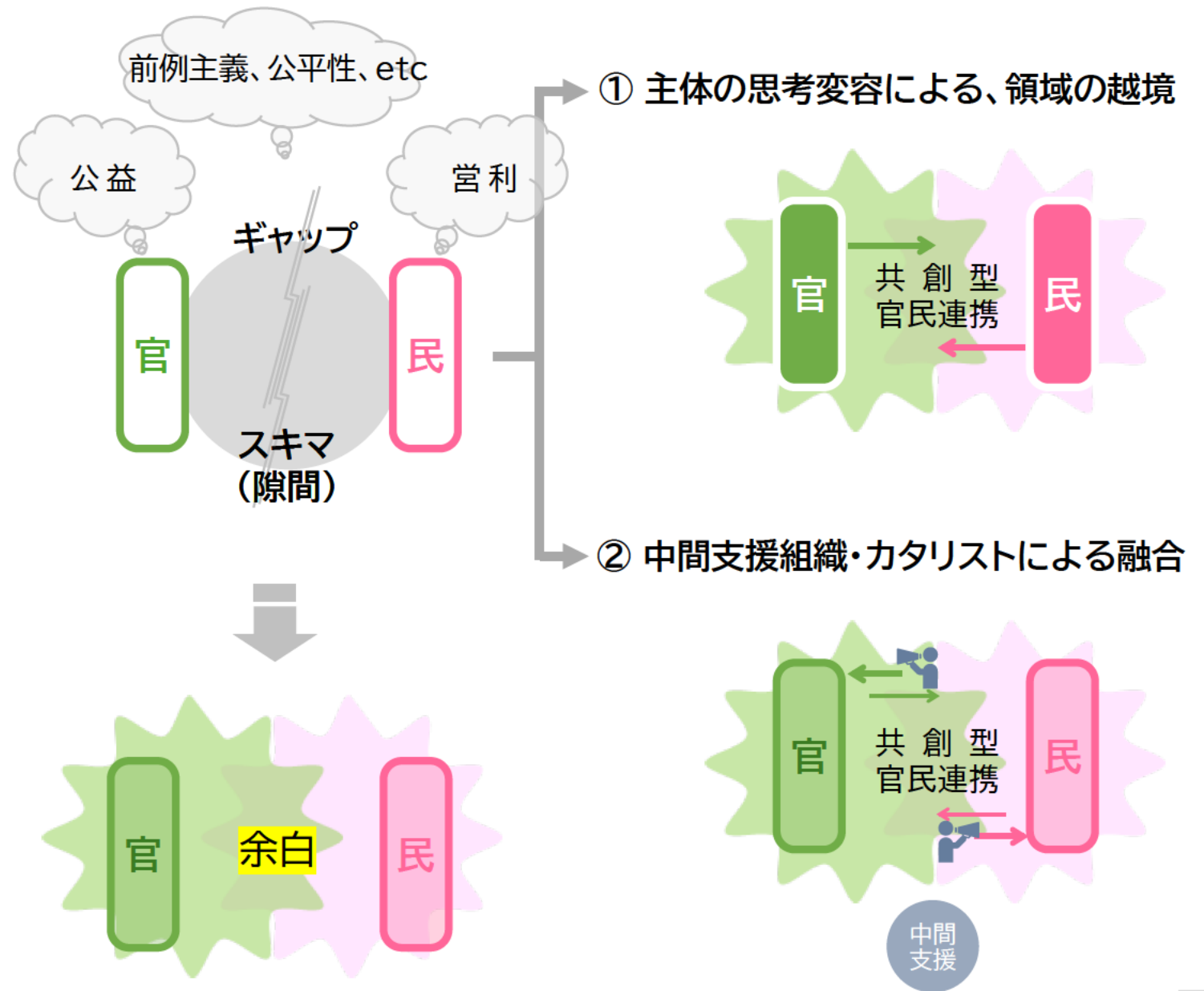
(8) 官と民の「越境プロセス」を支援することで、スキマを余白に

官と民という、異なる価値観をもつ主体の「共創型官民連携」を生み出すために必要なアプローチとして、

- ① 各主体がスモール・アクションを通じて、思考変容から行動変容を生み出し、既定の領域を越境。
- ② 異なる主体をつなぎ、かき混ぜる「中間支援」を担う機関や人材。官民間の触媒として、公平な立場から助言。

があり、

- スキマ(隙間)を「余白」へと変えることで、イノバイティブ・クリエイティブな課題解決と価値創造へとつながる



(8) 体制構築プログラム(案)

- 官と民の対話・コミュニケーションを通じて、民間感覚の体感・習得、ダイバーシティの感覚を養い、課題解決や価値創造に向けた行動できるような人材の育成、様々なネットワーキングの機会を設けることにより、共創型官民連携を推進する主体であるプレイヤー人材の育成、組織文化の変容につなげる。
- 官と民の間をつなぐ、かき混ぜるといった役割を果たす中間支援組織、人材(カタリスト)とのネットワーキングや、創生期における派遣によるスモールアクションの具体的な提案、実行などにおける支援も体制構築において有効。

○自治体職員の思考変容、行動変容を促す越境教育等の場づくり

- * 先行して官民連携に取り組む地域事例の紹介
- * 自治体やコミュニティのキーパーソンが集うサミット(情報共有の場)
- * 自治体職員の悩みや課題、取組手法を共有できる場や人脈づくりの機会づくり
- * 職員の人材育成に寄与する越境教育(官民連携プログラムの疑似体験等)
- * PPPやシティマネジメント等について学ぶ機会づくり

○共創型官民連携を進めていくための環境整備

- * 域内の中間支援組織からの人材派遣やネットワーキングやカタリスト等の専門人材の派遣
- * 中間支援
- * 予算面での支援

① 成果報告会の概要

○日程：令和7年2月26日(水曜日)14時00分から17時00分まで

○開催方法等：ハイブリッド開催

＜オンライン＞Microsoft teams

＜リアル会場＞情報通信交流館 e-とぴあ・かがわ「BBスクエア」

○参加実績：約50名



○プログラム内容

- ・ 開会・調査事業の概要説明
- ・ 先行事例2地域の共創型官民連携の「はじまり」紹介

＜三重県桑名市＞ 市長公室 政策創造課 日紫喜様

財政状況の危機解決を目指し、共創型官民連携をスモールスタートから、官民連携のワンストップ対話窓口「コラボ・ラボ桑名」開設に至るプロセス、官民対話を可能にする恒常的な体制や仕組み、心得等も踏まえてご紹介。

＜愛媛県大洲市＞ 環境商工部 専門官(官民共創担当) 武田様

城下町・大洲の失われつつある町並みの保全に向け、観光まちづくりを軸に、伊予銀行等との共創型官民連携がスタート。スピード感と熱意をもちながら、官と民が何度も対話を繰り返しながら事業を構築していった取組をご紹介。

・ 先行事例2地域とのクロストーク

日紫喜様と武田様にご登壇いただき、「共創型官民連携の各取組を始めるにあたって直面した障壁や課題、その解決方法や工夫」、「共創型官民連携のポイント(勘所)」について共感する点や、アクションに向けたアドバイス等についてトーク。

・ 調査結果の報告等

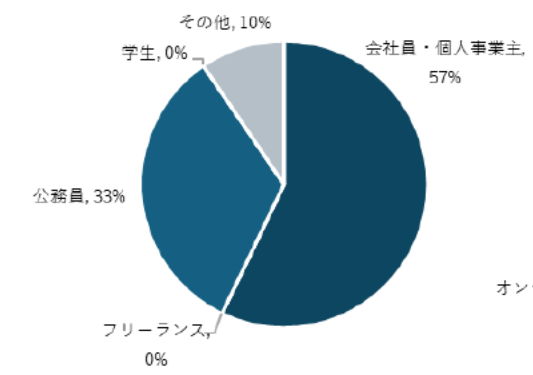
ヒアリング調査を踏まえ、共創型官民連携の勘所を取りまとめた結果をご紹介。

・ ワークショップ(リアル会場のみ)

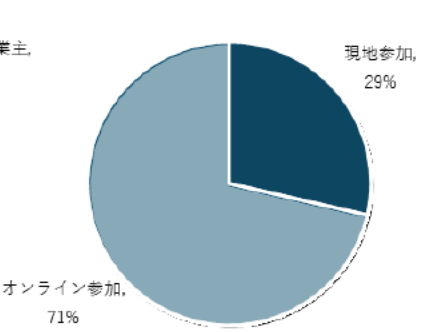
四国内で共創型官民連携に取り組んでいる自治体、民間事業者、大学関係者等で、官民連携における日頃の悩みや今後取り組みたいことについて、ワークショップ形式の意見交換を実施。

② 主なアンケート結果

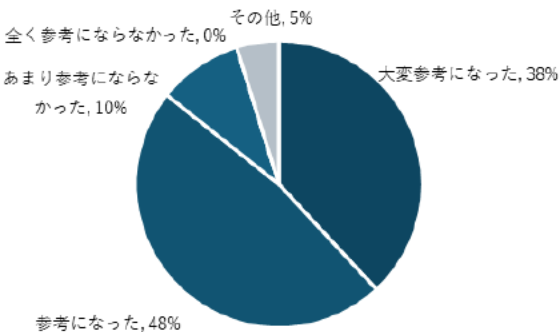
・ 職業



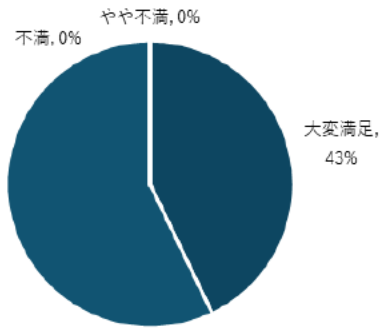
・ 今回の参加方法



・ 分析フレームについての評価



・ 成果報告会の満足度



・ 参加しての感想等

*発表者の日紫喜さんや武田さんの内容が、もっと時間があっても良いほど、中身が濃かった。クロストークで補足を聞いたのでより理解が深まった。

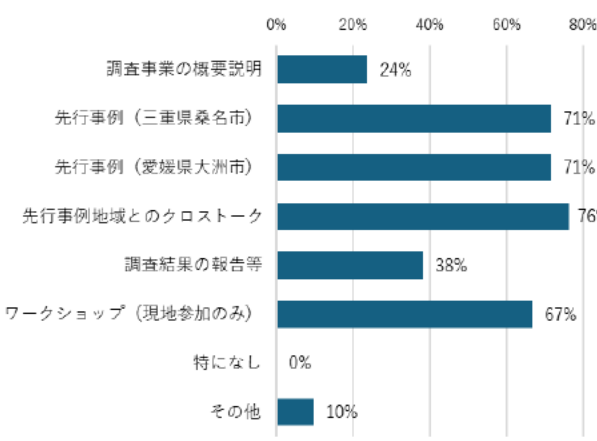
*現場でのやりとりや意識、意気込みなど、なかなか資料には落としこみにくい重要なポイントが、肌感覚として伝わった。

*行政側の職員が民間と交流する機会の創出や、行政職員が専門人材と一緒に行動することができる環境を構築することで、更なる取組の深化がはかれると思う。

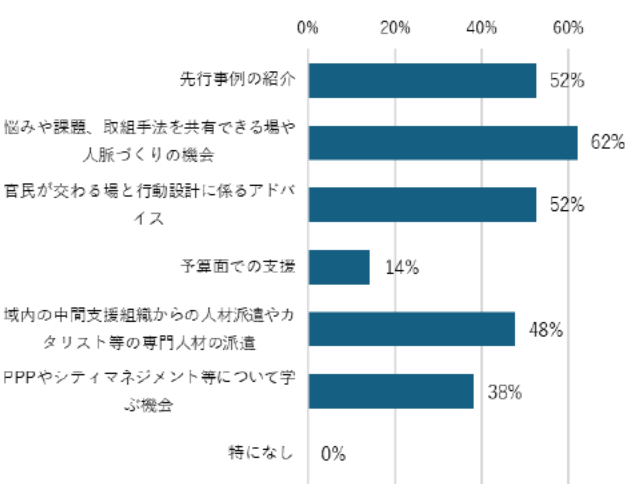
*中間組織の役割にフォーカスした先行事例や課題分析を聞いてみたい。また、報告の最後にあった「余白」のつくりかた(隙間から余白への変え方)、「余白」のつかいかたも知りたい。

*行政側の中に、日紫喜さんや武田さんのような人材を、育て続けるプラットフォームを期待している。

・ 参考になった内容



・ 共創型官民連携の促進のための支援策



・ 共創型官民連携で解決したい課題等

